



ネリーズ通信

第20号 2021年9月

編集発行責任者 社会福祉法人 練馬区社会福祉協議会



ネリーズ紹介 No.17

ネリーズは日々の暮らしの中で、近隣の方たちとつながっていくことで、ゆるやかに見守りあい、誰にとっても暮らしやすい地域づくりを目指している地域の皆さんです。

川合さんは石神井地区の地域活動団体、子ども支援「ぼれぼれ」で活動されています。川合さんの元ご自宅を改修した「ぼれぼれ」は、家族が暮らした息吹がそこかしこに感じられる居心地の良い空間でした。川合さんの温かい人柄と物語に引き込まれながらお話を伺いました。



住宅街の中にある事務所。ステキな木の看板が目印です(^^)

必要な人がいる限り、自分にやれることを。 かわい みどり 川合 碧さん

仕事を引退した翌日から (!)「子ども支援ぼれぼれ」で活動をしています。ぼれぼれは、定年まで勤めた児童養護施設の元同僚である友人が“行政の網からもれる人を支援したい”との思いで、立上げた団体です。

私は二十歳で児童養護施設の職員になり、さほど歳の違わない子どもたちの“おかあさん”役を引き受けることになりました。親の愛情という根っこの部分が育っていない子も多く、私の愛情を試そうと、わざと困らせる行動をとる子たちもいます。それでも、定年までここで働きたいと思うほど、大切に魅力的な仕事でした。少しでも子どもたちの環境を良くしたいと、官・民の壁を超えて養護施設の職員同士が学び合ってきました。状況というものは自然には変わらず、変えていくエネルギーが必要だと感じます。夫とも、そんな中で出会いました。今のぼれぼれの活動も理解をしてくれ、支えてくれています。喧嘩もしたことのなくらい仲良しです (笑)。

ぼれぼれの活動は、手弁当。それでも自分がやりたくてやっています。必要な人がいる限り、自分にやれることはやろう、と思っています。今はコロナで難しいですが、バザーも開催しています。復活した際には、遊びに来てくださいね。

児童養護施設の今昔から結婚秘話、子育ての話まで、何でも教えてくれる川合さん、懐の深さに誰もがホッと安心されるだろうなと感じました。

「ぼれぼれ」はスワヒリ語で「ゆっくり、のんびり」だそうです。川合さんの穏やかな笑顔と信念を感じるゆるぎなさは「ぼれぼれ」を象徴しているように感じました。地域で生活する様々な人にとって拠り所となる人・場所だと思います。一方、行政からの補助金がカットされ団体運営を続けていけるか危機的な状況にあるともお聞きしました。ネリーズの皆さんもぜひ「ぼれぼれ」への応援をお願いいたします！



私の一枚 ~ネリーズかるた~

す 少しずつ やっていきたい できること

読み札の作者エピソード：自分は何もできないと思っていましたが、いろいろな人の話を聞いてできることがあると気づきました。

ネリーズかるたとは…ネリーズになって気づいたことなど、ネリーズ懇談会などで教えていただいたエピソードをもとに、標語や絵もネリーズの皆さんにご協力いただき作成されたかるたです。

ぶどうの木[※]の森さんが選んだ一枚

少しずつでも何かできたら、必ず喜ぶ人がいるはず。少しずつでも分け合ったら、助かる人がいるはず。みんなの少しが、大きな力になるのですね！



※ぶどうの木：DV被害体験を持つ女性たちの安心できる場の提供、相談、同行支援、母子プログラム、自立のための研修会などを開催している団体です。

